

3-9. 神奈川県横浜市（神奈川県横浜市）

(1) 地域の概要

【人口】

約 370 万人（横浜市全域）／関連区（4 区）：約 70 万人

【面積】

エリア全体で約 700ha（樹林地、農地、公園、河川等を含む）

【地勢】

「つながりの森」のコア区域である円海山周辺は、多摩丘陵から三浦半島の先まで続く丘陵地の一角をなしており、多摩丘陵の南端部と三浦半島に続く三浦丘陵との結節点となっています。この多摩丘陵から三浦半島の先まで続く丘陵地は神奈川県東部で最も大きな緑地です。エリア内に多く見ることができる、横浜市の特徴的な地形である「谷戸」地形は、水と緑に囲まれた自然豊かな環境となっています。

【自然】

①円海山周辺（コア区域）

樹林地がおおよそ十字を描くように南北と東西にのびた水と緑の豊かな環境です。

樹林地のほとんどは、かつて薪炭林として利用されてきた落葉広葉樹林と用材として植林された針葉樹林となっています。そのほか、常緑広葉樹や竹林も見られます。

②コア区域以外の地域

多くが住宅地となっていますが、公園緑地、寺社林や畑等が点在しています。また、身近な水辺として、小川アメニティやせせらぎ緑道があります。

③生物相

横浜市全域で確認された動植物の半分以上の種が、円海山周辺の樹林地等で確認されています。また、絶滅のおそれのある貴重な生き物も多く確認されており、市内の生き物にとって、重要な生息・生育環境となっています。一方で、特定外来生物はアライグマをはじめとし7種、要注意外来生物は29種が確認されています。

【歴史・観光】

国の史跡にも指定されている称名寺を始めとし、歴史的に重要である施設、スポットがあり、多くの人が訪れます。

また金沢動物園を始めとし、市内の貴重な動植物の生息地・生育地であることを活かし、野鳥観察会、自然散策会等を開催しています。また、活動の拠点施設として自然観察センターや宿泊施設があり、宿泊施設ではバーベキューや陶

芸を楽しむこともできます。



上図：横浜つなぐりの森マップ

(2) アドバイザー派遣申請の背景

1) アドバイザー派遣申請の背景とこれまでの取組

横浜市では、生物多様性基法の地域戦略である、生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）に基づき、平成24年7月に「横浜つながりの森構想」を策定しました。「横浜つながりの森」は、連続した緑地として市内最大である円海山を中心としたエリアであり多様で貴重な動植物が生息・生育している「横浜の生物多様性の宝庫」と位置づけられています。

本構想では、この「横浜つながりの森」を市民全体で、体感・感動し、次代、次々代につないでいくことを目標とし、「生き物の多様性を大切にすると」「自然を楽しむ」を柱として、保全と活用のバランスを保ちながら取組をすすめることを基本方針に、それぞれ具体的な取組を定めています。

この具体的な取組のひとつとして、「エコツーリズムの推進」を掲げており、「地域の資源を活用したプログラムの充実」や「エコツアーのルール（マナー）の設定」などに取組み始めています。

2) 地域の課題について

「横浜つながりの森」のエリアは、樹林地、都市公園、道路、河川、民有地など様々な種類からなり、管理者も異なります。市民団体の活躍する場所も多く、それぞれ環境の保全や活用についての考えを持っています。エコツーリズムの推進にあたっては、保全を重視する立場と、活用を進めようとする立場の間で、考えの違いが問題になることがあります。

また近年、利用方法として団体でのハイキングやトレイルラン、マウンテンバイクでの通行など、環境への負荷が大きいと考えられ、安全面でも問題のある活用方法が増えることが増えてきました。これらに対しても、場所ごとに管理者や土地の属性が異なるため、エリア全体の利用について、一部の管理者が利用の制限等をお願いすることが難しい状態となっています。

またエコツーリズムの推進により、利用が増えることによる環境負荷について、利用者へのマナーの普及啓発等が課題となっています。

てルールを普及啓発すると効果的。

⑥今後の課題

- ・ハイキングコース沿いに設置されている、異なる設置主体の看板の文言を整理する。
- ・ルールやマナーの策定にあたり、根拠のあるものとなないものを区別する。
- ・関係者へのルール周知方法の検討
- ・案内版の表現方法を確定することを目指す。

2) 2回目派遣

①講演会・意見交換

- ・横浜市でエコツーリズムを推進する場合は、現在地域内で活動している自治会やサークル活動にツアーガイドを依頼することもできるのではないかと。エコツアーのガイドに深い専門知識が必ずしも必要なわけではない。
- ・今回の派遣事業は主にハイキングコースの利用ルールの検討がメインだが、ルール策定後はエコツーリズムのツアー内容についても具体的に検討してもらいたい。

②意見交換会

- ・事務局作成のルール案に、ストックの利用も含め「施設や道を傷つけないよ注意してください」というようなマナーを一つ入れたほうがよい。
- ・バードウォッチングなどの道路や広場の専用については、一般的な迷惑行為の禁止として項目を入れたほうがよい。
- ・利用者が感じる迷惑行為は多様であるため、具体的に項目を列挙するのではなく、様々な迷惑行為に運用マニュアルで対応することも一つの手だ。
- ・森の入り口に散策マップを配架することが望ましい。利用者にとって便利であり、認知度向上にもつながる。

③今後の課題

- ア. ハイキングコースに入る前に、利用者がマップを手にするができるか（たとえばマップの掲載されている看板近くに配架する等）検討する。
- イ. 集団利用や、大会の開催について市の考え方を決める。
- ウ. ルールの表現方法については、今後実施するアンケート等の意見を反映し具体的な内容を記載するかを検討する。
- エ. ルールの運用を規定するマニュアルを作成する。

(5) アドバイザー派遣実施の効果

1) 1回目派遣

①課題と取組方の明確化

第三者の視点でハイキングコースを全域にわたり視察することにより、課題が明確化しました。(看板設置主体によって異なる表現、ルールとマナーの整理等)それにより、課題解決に向け取り組むべき事項が明確になりました。(看板の文言の一覧化、ルールとマナーを整理すること等)

②今後の取組

今回明確化された課題を関係者で共有し、平成27年1月に開催する関係者意見交換会で、横浜つながりの森ルールの詳細を検討する。

2) 2回目派遣

①課題と取組方の明確化

11月にハイキングコースを視察したアドバイザーが、他都市との比較を交えながらアドバイスを行うことにより課題及び課題解決に向け取り組むべき事項が明確になりました。(ルール文言の表現方法、ルールの周知方法等)

②今後の取組

今回の意見交換会での意見を集約し、ルール策定に向けた作業を推進します。

(6) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

アドバイザーの方と関係者で包括的に現地を確認することにより、机上で意見交換するよりも意識の共有が図ることができました。また、課題を明確化されたことにより、今後のスケジュールを立てることが可能となりました。

日程を現地視察と意見交換会の2回に分けることにより、時間的に余裕をもって課題を検討することができました。他都市の事例も踏まえたアドバイスは的確で検討課題の具体化への参考になりました。

【記録写真】



視察前の打ち合わせ



拠点施設の視察



ハイキングコースの視察



現場の課題について職員より聞き取り

現

(7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

公益財団法人日本生態系協会 地域計画室長 城戸 基秀 氏

1) 地域における取組の現状と課題

横浜市では、市南部の円海山周辺の区域を「横浜つながりの森」エリアとして、保全・活用を推進しており、平成 24 年 7 月に策定された「横浜つながりの森構想」では、取組の一つとして「エコツーリズム」の推進があげられている。現在は、散策マップの作成・配布や、看板設置などにより、市民への普及広報に力を入れている。

「横浜つながりの森」エリアには、都市公園、市民の森、特別緑地保全地区のほか、農地や公道なども含まれており、多くの関係者が存在している、現在、構想の実現にむけた取組が進められているが、関係者間の合意に基づく取組の推進が課題となっている。

なお、今回のアドバイザー派遣は、関係者間の合意に基づくルールを検討支援を主な目的としている。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

「横浜つながりの森」は、都市近郊のアプローチしやすい場所に、水辺や湿地などの谷戸環境や、森林環境などの多様な環境があること、また、これらを結ぶトレイルがあることに魅力を感じた。

また、エコツーリズム推進法の自然観光資源とは意味合いが異なるが、「横浜つながりの森」には、既に市民に親しまれている「市民の森」「横浜自然観察の森」「金沢自然公園」といった拠点があり、それぞれの拠点において管理者と市民が長年培ってきた様々な取組があり、これが地域の魅力を高めていると感じた。

3) アドバイス（講義等）の概要

今回の派遣の主な目的は、ルールの検討であったため、エコツーリズムの基本的な考え方や里山タイプのエコツアーが行われている飯能市を例にエコツーリズムの概要について説明したのちに、2日間の現地確認を基に、ルールを検討する際の考え方等について意見を述べた。

具体的には、現在ある看板類などをチェックし、その内容から共通点を把握すること、「横浜つながりの森」の共通ルールとつながりの森を構成する「横浜自然観察の森」「金沢自然公園」「市民の森」などの個別ルールを区分すること、「横浜つながりの森」の基本方針に合わせて、ルール設定の理由・根拠を明確にすること、ルールの運用にあたっては、マニュアルなどを作成し更新すること、などを提案した。

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

「横浜つながりの森」においてエコツーリズムは取組メニューの一つであることもあり、全体構想の策定に取り組む意向は現在のところもっていない。

「横浜つながりの森」は約 700ha と広い面積を有するものの横浜市内の一部の区域であり、関係者も行政関係者が多い。そうした点を考慮すると、推進協議会を設置し、全体構想を策定するためには、まず、全体構想の必要性（ルール的位置づけの明確化や、特定自然観光資源の指定など）についての関係者の合意形成が必要と考えられる。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

以前、この地域を訪れたときには緑地の連続性についてはほとんど考えたことがなかったが、今回は、まとまりのある区域としての意識を強く持てた。このように、公園や自然観察の森、市民の森、歴史資源といった管理者や所有者の異なる区域を「横浜つながりの森」としてまとめ、活用と生物多様性の保全を進めていくこの取組は、先進的であり、プロモーション等の効果が高いと感じた。

会議でもご意見をいただいたが、「横浜つながりの森」構想に示された方針である「エコツーリズムの推進」を具体化していくための、より詳しい内容や役割分担などを検討していただくと、都市近郊における魅力的なエコツーリズムが推進できると感じた。ぜひ、周辺住民などと一緒に魅力あるエコツーリズムを進めていただきたい。